



2018年5月12日(土) 11:00

南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)

はじめに: スナール室内楽シリーズ

- ・南葵音楽文庫所蔵の”スナール室内楽シリーズ”から興味深い作品を紹介
- ・今回のテーマ: 海軍軍人・兼・作曲家、ジャン・クラースの作品

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel. 073-436-9500



1. 知られざる作曲家クラース Jean Cras (1879-1932)

*「クラ」「クラース」とも表記される。

- ・ブルターニュ地方の軍港プレストに生まれる。
- ・海軍士官学校を卒業、海軍に入る。
Cf. 作曲家デュパルクとの繋がり
- ・航海術に関する発明を行う (règle de Cras)。
- ・軍務の合間に作曲の筆を執る。
- ・歌劇、管弦楽曲、協奏曲、室内楽曲、歌曲などを作曲。
→その多くはスナール社から出版。
- ・《五重奏曲》*Quintette* (1928年)
フルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、
ハープのための作品。
戦艦プロヴァンスで作曲。全4楽章。

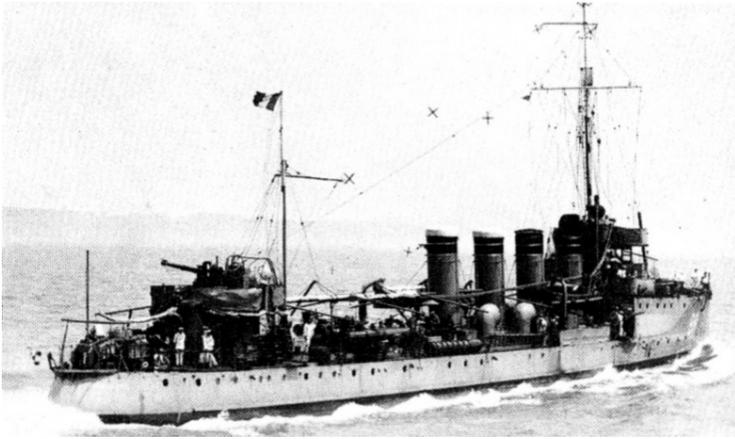
2. 海の音楽

海軍軍人と作曲家～第一次世界大戦

- ・駆逐艦 *Commandant Bory* を指揮してオトラント海峡海戦 (1917年) に参加。
- ・その間も時間を見つけて作曲を続ける。
ピアノ曲《舞曲》*Danze* (全4曲、1917年), 《風景》*Paysages* (全2曲、1917年)。
- ・歌劇《ポリフェーム》*Polyphème* (1910-18年) の管弦楽配置を行う。1922年初演。

海の音楽

- ・クラースの音楽は、多くの場合、海の音楽。
ex. 〈けだるい舞曲〉*Danza morbida* (《舞曲》第1曲)
イタリアのターラントで作曲。イタリア人の戦友(潜水艇の艇長)に献呈。
楽譜には「海」にかかわる言葉は記されていないが、海のリズムが浸透?



駆逐艦コマンダン・ボリー。1912年撮影。クラースがこの艦を指揮したのは1916-18年。

3. 異国の音楽

海の彼方の音楽

- ・軍務でアフリカを訪れる。→現地の民族音楽に触れ、強い印象を受ける。
 - ex. フルートとハープのための《二重奏の組曲》*Suite en duo* (1927年)
ギニアを訪れたことがきっかけで作曲。スナール室内楽シリーズの一環。
全4曲。第4曲は〈11拍子の舞曲〉*Danse à onze temps* (下の譜例)



- ・東洋の詩のフランス語訳で曲を書く。
 - ex. 《歌の捧げもの》*L'Offrande lyrique* (タゴール詩、ジイド仏訳、1921年)
《ルバイヤート》*Robaiyat* (オマル・ハイヤーム詩、トゥッサン仏訳、1924年)

4. ジャン・クラースと日本

本人は軍人としても音楽家としても来日せず。

フランスのピアニスト、ジル=マルシェックス(Gil-Marchex 1894-1970)が、1925年の来日リサイタルのひとつで、クラースのピアノ曲《風景》第1曲〈海の風景〉*Maritime*を演奏。

※ 写真はいずれも、フランス海軍士官学校 (Ecole Navale) のHPより。

http://ecole.nav.traditions.free.fr/officiers_cras.htm